

《担当者名》○ 歯学部准教授 / 松岡 紘史 歯学部講師 / 村田 幸枝

【概 要】

衛生・公衆衛生学では、人間の健康問題をさまざまな要因の相互関係から考えていく。そのため自分のおかれている地球・国・地域・集団などにおける衛生・保健に係る要因を正確に把握し、それを解析することのできる能力が必要となってくる。本教科ではこの力を養うために、自分の周囲の環境、疾病の予防方法、さらには地域・国家・世界における保健機構について学習する。ここから健康を阻害する要因を多方面から観察し集団に対する予防活動を実施するための基礎的能力を習得することを目的とする。

【全体目的】

口腔の健康を通して全身の健康の維持・増進を図り、生活の質の向上に寄与するためには、衛生・公衆衛生学の学問基盤が必須である。本講では、歯科衛生士として理解しなければならない衛生・公衆衛生学の基礎知識を修得する。

【学修目標】

- 衛生学・公衆衛生学の概念について説明する。
- 疫学概念、必要性、研究方法について説明する。
- 人口問題について説明する。
- 環境問題とその健康への影響について説明する。
- 感染症の疫学概念、予防対策、法的根拠について説明する。
- 食生活と栄養、食中毒について説明する。
- 地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、高齢者・障害者保健、精神保健、高齢者保健について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	編 健康を左右する環境 1章 総論 1. 衛生・公衆衛生の定義 2. 健康の概念 3. 予防医学の考え方	● 衛生・公衆衛生学の概念ならびにその範囲を理解する。 ● 「健康」という意味を理解する。 ● 「健康日本21」の役割を学ぶ。 ● プライマリケアやヘルスプロモーションについて学ぶ。	村田 幸枝
2	2章 疫学 1. 疫学概念 2. 疫学要因 3. 疫学の実態	● 疫学という研究方法を理解する。 ● 健康障害因子を理解する。 ● 疫学研究の方法論を学ぶ	松岡 紘史
3	3章 人口問題 1. 人口静態統計 2. 人口動態統計 3. 生命表	● 国家の基本となる人口ならびに人口構成を理解する。 ● 高齢社会がどのような社会変化をきたしたかを理解する。 ● 少子化とその対策を理解する。 ● 我が国と諸外国との人口諸統計を比較する。 ● 地球規模での人口問題を学ぶ。	村田 幸枝
4 { 5	4章 健康と環境 1. 環境の概念 2. 温熱環境 3. 空気 4. 放射線（光線・電磁波） 5. 日本の気候 6. 住居・衣服 7. 水の衛生 8. 公害 9. ゴミ問題 10. 地球環境破壊	● 生活環境を理解する。 ● 生命維持に必要な空気・水などの衛生がどのように守られているかを知る。 ● 有害環境要因はどのようなものがあるかを知る。 ● 公害の種類を知り、我が国における歴史的公害事件を学ぶ。 ● 地球環境の保全について学ぶ。 ● 生活・産業廃棄物の問題について学ぶ。 ● 医療廃棄物の問題を知る。 ● 地球温暖化、環境ホルモンについて知る。	村田 幸枝
6 { 7	5章 感染症 1. 感染症の疫学 2. 感染症の予防 3. 急性・慢性疾患の予防	● 感染症の要因を知り、その予防法について学ぶ。 ● 主な感染症の動向を知り、対策を理解する。	村田 幸枝

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	4. 主要な感染症		
8 (9	6章 食品と健康 1. 食事摂取基準 2. 食中毒 3. 食品添加物	● 食事摂取基準の概要を知る。 ● 食中毒の原因別分類、発生頻度などを十分に理解する。 ● 食品添加物の種類と機能について知る。	村田 幸枝
10 (11	編 健康に関わる地域の役割 1章 地域保健 1. 地域保健活動 2. 地域保健問題 3. 地域保健計画	● 保健活動のひとつの単位である「地域」というものを把握する能力を養う。 ● 保健所と市町村保健センターについて学ぶ。 ● 保健行政機構の概略を知る。	村田 幸枝
12	2章 母子保健 1. 母子保健の意義 2. 母子保健統計 3. 妊産婦保健管理 4. 小児保健管理 5. 母子保健対策	● 母子保健で用いられる用語を理解する。 ● 妊産婦・小児の健康が、国家により保護されていることを知る。 ● 就学前までの小児の成長と、それに随伴する保健活動について学ぶ。	村田 幸枝
13	3章 学校保健 1. 学校保健機構 2. 保健教育 3. 保健管理 4. 学校給食 5. 学校安全 6. 特殊学級	● 幼稚園から大学に至るまでの間の学校保健機構について理解する。 ● 保健管理の基本である健康診断の内容について学ぶ。 ● 学校三師の役割について学ぶ。	村田 幸枝
14	4章 成人・高齢者保健 1. 生活習慣病 2. 高齢者保健	● 生活習慣病の種類とその予防法を理解する。 ● 成人・老人保健の推進は急務の国家的事業であることを知る。	村田 幸枝
15	5章 産業保健 1. 労働環境と健康 2. 労働衛生管理 3. 職業病（労働災害） 6章 精神保健 1. 精神保健の意義 2. 精神障害の分類 3. 成長と精神 7章 国際保健	● 事業所における従業員の保健管理の実態を知る。 ● 衛生管理者、労働衛生コンサルタント、産業医、産業歯科医の身分規定とその職務・権限について学ぶ。 ● 職業病とその原因を知る。 ● 精神障害の種類を学ぶ。 ● 精神障害の要因について知る。 ● 開発途上国における健康問題を口腔衛生に関連した視点から学ぶ。 ● 開発途上国の健康問題の背景にある社会問題、特に貧困について学ぶ。	松岡 紘史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（90％）とレポート及び授業態度（10％）で総合的に判定する。

【教科書】

「保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

【参考書】

シンプル衛生公衆衛生学 小山洋・辻一郎 監修 南江堂

【学修の準備】

予習：指定した教科書の項目を読んでおくこと。（40分程度）

復習：講義ノート・配布資料をまとめ、講義内容を理解しておくこと。（40分）

【環境因子測定実習】

課外活動として、身近な温熱環境および照度を測定する。課題レポートを課す。

レポート点は5点として筆記試験点数に加算する。

【実務経験】

松岡紘史（公認心理師）、村田幸枝（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師および歯科医師としてのこれまでの実務経験を活かし、医療人として必須である公衆衛生学に関する専門知識を提供するとともに、健康づくりのあり方を提示する。